

ご挨拶

自治医科大学
看護学部長・大学院看護学研究科長
水戸美津子

看護学部はこの3月に第3回卒業生109名を送り出し、また、平成18年度開設の大学院看護学研究科では初めての修了生2名を輩出いたしました。ここに、本学教職員の方々並びに保護者の皆様の御尽力に深く感謝申し上げます。

本看護学部は開設7年目を迎えました。本年度の教育研究上の主な取り組みのいくつかをご紹介しますと思います。

まず、今年度入学生からカリキュラムを全面改正いたしました。このカリキュラムは「基礎科学分野」「看護学分野」「総合分野」の3分野で構成しております。基礎科学分野は広い視野での見識や多様な価値観が学べるように、看護学分野では看護実践に必要な知識と技術やそれに関連の深い学問領域を学ぶことができるように、そして総合分野では1年次から4年次までの小グループ学習を通して専門性を深め、看護実践を追究していく基礎能力が備わるように科目を設定しております。

また、実習教育の指導体制の充実と看護の質の向上を図ることを目的に看護学部臨床教授等制度を導入しました。さらに、この看護学部臨床教授等制度と連動して、看護学部教員と臨床看護師との実践研究の充実も今年度の重点課題としております。

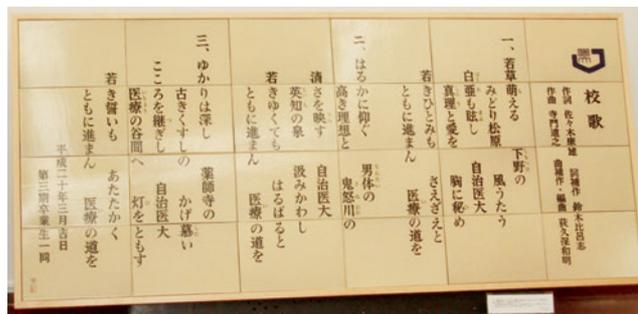
平成19年度より開始した学生の学習支援を目的とする学年担当アドバイザー制度をより一層充実させるために、各学年担当アドバイザーを従来の2名から3名に増やすと同時に、積極的にオフィスアワーを設定し学習支援を充実させました。

最後に、嬉しい出来事を1つご紹介いたします。本看護学部の第1回卒業生が4月に大学院看護学研究科に初めて1名入学いたしました。看護学部の卒業生が臨床経験を経て母校に戻ってくる時期になったことを、教職員一同大変うれしく思っております。他の卒業生も臨床経験を経て入学されることを期待したいと思います。

今後とも、本看護学部並びに大学院看護学研究科へのご支援をよろしくお願い申し上げます。



入学式式典風景



第3期卒業生寄贈「陶製校歌額」藤原郁三先生作

新 入 生 の 近 況

夢に向かって

看護学部1年 篠原 美香

自治医科大学に入学し、早3ヵ月が経ちました。最初は、授業について、友達関係など不安でいっぱいでした。しかし、親切にいろいろなことを教えてくださる先生方・先輩方、そしてとても頼りになる友達に出会えて充実した毎日を送っています。

「看護基礎セミナー」の授業では、ヒューマンケアについてグループでディスカッションなどを行っています。自分が今まで気がつかなかった看護に対するみんなの思いや考えを聞き、毎回の授業で新しい発見をしています。また、この授業は編入生もグループの一員として行っています。私たちよりも経験や知識が豊富なので、実践的な意見も聞くことができます。これから、もっと自分の考えの視野を広げていくことができるでしょう。

「実践基礎看護学概論Ⅰ」の授業では、ナインゲルやヘンダーソンの本を読みました。看護の基礎となる考えなどを学んだことにより、入学時の自分の看護観とは少しずつ変わりつつあります。これから、演習の授業も始まります。一つ一つ基本的なことから正確に理解していきたいです。

大学生活を有意義なものとするためにも自分の目標はいつでもしっかりと持ち、日々の努力を怠らないようにしたいです。また、同じ目標を持ってこの大学に入学してきた仲間たちと切磋琢磨し、看護の技術や知識を身につけるだけ

でなく、人間的にも大きく成長していきたいと思っています。これから4年間、自分の夢の実現のためにいろいろと頑張っていきたいです。

チャレンジ精神

看護学部編入生3年 橋本 尚子

自治医科大学に編入し、あっという間に2ヶ月が経とうとしています。久々の学生生活に戸惑いながらも、1～2年生に混ざっての授業やグループワーク、また部活動と充実した新鮮な毎日です。今年の編入生は8人で、海外に住んでいた経験のある人や、看護師としての経験がある人、看護学校・短大卒後すぐに入学した人など、年齢・経験ともにさまざまに個性に満ち溢れており、異なった視点から幅広い話ができるので、互いにとても良い刺激を受けています。この8人の仲間との出逢いをきっかけに、今まで自分が描いていた世界や考えが‘小さいな’と思うことも多くなりました。これも私にとっては大きな発見です。

臨床に出て働いていた私にとって、一度落ちついてしまった自分の居場所を自ら抜け出し、新たな環境へ飛び込むということは想像以上に労力の必要なことでした。しかし、入学してみると、また現役時代とは違った見方で、その労力を遥かに上回る新しい発見と、新しい仲間・人々との出逢いがあり、今では一步を思い切って踏み出して本当に良かったと思っています。毎日の学校生活は一つ一つが新鮮そのもので、改めて‘看護’‘医療’を考える良い時間ともな

新入生懇親会



高久学長を囲んで



島田病院長を囲んで

っています。これからの学生生活で得るすべての発見・出逢いを通して、もう一度自分自身を見つめ直し、看護師である以前に、一個人として私自身成長していきたいと思っています。

人生のうちの2年間という貴重な時間を自分磨きの為に費やし、今だからこそできること・

今しかできないことを探して、人生の経験値を上げたいと思います。また先生方や将来同じフィールドで働く夢を持つ仲間など、より多くの人々との関わりを大切に、2年間チャレンジ精神を持って私らしく頑張っていきたいと思います。

各 学 年 の 近 況

1年間を振り返って

看護学部2年 竹内 詩織

入学してからあっという間に1年が過ぎ、いつの間にか私ももう2年生になりました。入学してからの1年はとても早いもので、振り返ってみるととても充実した濃いものであったと思います。

私はこの1年間でたくさんの数えきれない様々な人たちと出逢い、いろいろなつながりを築けたことに幸せを感じています。様々な地方から集まってきた友人や先輩・後輩をはじめ、素晴らしい経歴を持った先生方、地域の人々など様々な年代の人たちと貴重な関わりを持つことができました。今まで知らなかった世界を知り得ることができ、自分の考えや視野を広げる良い機会にもなったとともに多くの刺激を与えられました。同じ目標に向かって共に力を合わせて頑張ろうと思える仲間、喜びや辛さを分かち合える仲間に出逢えたことなどをたいへん光榮に思います。それらの出逢いがあったからこそ私は入学した時に比べ一回りも二回りも大きく成長したにちがいないと思います。改めて人は人によって成長していくもの、支え合うことの大切さを強く感じました。

大学生というものは、自由で責任のある時期といえ、この時期をいかにどう過ごすかによって、今後の人生でかけがえのない貴重なものを得られるにちがいないと考えます。今後、今までに経験をしたことのないような、あるいは想像もしていなかったような体験をするかもしれません。辛くて大変で逃げたくなることもあるかと思います。ですが、そのような壁を一つ一つ越えていくことによってこそ得られる喜

びや感動を通して人は成長するものだと思います。だからこそ失敗を恐れず様々なことに対して積極的にチャレンジしていきたいです。また、どんなときも出逢いは一生の宝であるということを忘れずに、多くの人たちとの出逢いを大切にしながら一日一日を有意義に過ごしていきたいと思います。

変化

看護学部3年 大串 裕也

看護学部に入學して2年、気付けば3年生になっていました。あっという間ですね。

元々、かなりの人見知りである私は、今ではだいぶ慣れましたが初めは女性ばかりの環境にとっても戸惑っていたことを思い出します。しかし医療に携わろうと学んでいるからには、そんな事を言っている場合ではないですよ。講義や実習、普段の学生生活を通して多くの人の持つ価値観、世界観に触れる度にそう思います。それらに触れる度に自身の持っていた認識に変化が起こっていくのを感じたりします。前述の表現のように今まで変化とは「感じる」ものだと思っていました。

しかし、どんなに素晴らしい体験をしても、その場でそれを全て消化する事は難しいと思います。私達が食事をしても栄養が吸収されて身となっていきますが、それが認識できるようになるのは食べ過ぎて肌が荒れたりとか、何か変化が起こった後なんですよ。振り返ってみると変化とは「気付く」ものと考えようになりました。

私も気付いたら戸惑ってばかりだった環境に慣れていました。現在、行っている臨床実習で

も1年前、2年前とは違う視点を持って患者さんと関わろうとしている自分がいたりします。そう変わる事ができ、その変化に気付く事ができたのは、実習を共にする仲間や指導をしてくださる方々、大切な親友、たくさんの人との繋がりが私の世界に刺激を与え続けてくれたからだと思っています。

医療職の中でも特に看護職は人と人との繋がりが重要で、今、出会っている体験をその場ですぐに活かせるのが理想だとは思っています。まだまだ未熟な今の私には難しい事だけれど、少しでも早く人のために自身を活かせる事ができるよう日々励んでいきたいと思っています。



祖父の死から学んだ医療者の接し方

看護学部4年 佐藤 幸代

大学に入って4年目の春。もう4度も桜が咲く季節を過ごしてきたのだなと、時の流れの早さを感じています。思い起こしてみれば、春とは私にとって決意の季節でした。早く大学に馴染もうと焦った1年の春、もっと成長したいと願い行動した2年の春、看護の世界をよく知るために多くのことを学ぼうと思った3年の春。

そして今年4年の春を迎えた私は、これから社会に出ても自分自身に恥じることはないよう、自身を磨こうと思っています。このように思ったきっかけには祖父の死がありました。

祖父は、亡くなる前の1ヶ月間は病院で入院していました。祖父が息を引き取った時、担当看護師さんは死に対してあまりに軽い態度であったため、側にいた家族は悲しみが増すどころか怒りがこみ上げてきたようでした。この話を聞いて私は、医療者にとって患者さんとの出会いや別れは日常茶飯事のことでも、家族にとってみたらその時その時が貴重な時間なのだと考えさせられました。そして、患者さんや家族は自分自身では気づかない医療者の一面をしっかりと見ているのだということにも気づかされました。人と接しているときの表情や態度は、自分自身では正しいと思っても、関わる人によっては受け取り方が異なってしまいます。だからこそ、人との接し方やその時の対応には日々責任を持たなければならないと思っています。

しかし、人との接し方や対応の仕方は身につけようと思っても、なかなか簡単には身につかないものです。来年の今頃には、私は社会に出て活動していることと思います。来年の私が自分自身に恥じることはないよう、今あるこの時間を大切に、日々自分自身を磨いていこうと思っています。大学生活も残り一年を切ってしまいました。この一年悔いの残らないように様々なことに挑戦し、大きく成長していこうと思っています。

卒業生の近況

産科病棟に就職して

3期生 内田 奈緒

4月から同期12名と産科病棟に就職することができました。薬師際や友人との国家試験の勉強・実習など充実した学生生活を送れたことを懐かしく思い出します。就職してあっという間に2ヶ月の時が過ぎました。振り返ってみると、毎日とても忙しく過ぎていきました。病棟に行

くことだけでも緊張し、何もできない自分を情けなく感じることもあります。しかし、先輩方はできないことを責めたりはしません。これからできるようになるためにはどうしたらよいか一緒に考えてくれ、先輩方のサポートや患者様からの学びがあり少しずつ成長できているのではないかと感じています。また、同期が多いことも強みになっています。同じ境遇にいる仲

間と話をするだけでも心強く感じ、支え合いながら働くことができます。

業務から看護ケアまで、覚えること・勉強しなければならないことは多々ありますが、スタッフの一員として質の良い看護が提供できるようにこれからも頑張っていきたいと思っています。

就職1年目、がんばっています！

3期生 関 陽美

今年3月に看護学部を卒業し、4月から自治医科大学附属病院の産科病棟で助産師として働いています。産科病棟で働くことは私の長年の夢でしたので、毎日が楽しく充実した日々を過ごしています。わからない事を相談しやすい年の近い先輩から経験豊富で頼れる先輩方まで、幅広い年齢層の先輩方がいらっしゃるのも心強いです。また、新人に対する指導が行き届いており、スタッフの皆さんが積極的に関わって下さいます。最初は、教えて頂いた事を無我夢中にこなすことで精一杯でした。しかし、少しずつ業務に慣れるにつれて、自分の考えも

伝えつつ、先輩の助言をいただくという事で、さらに具体的な看護が提供できるようになってきたように感じます。産科病棟は3つの病棟に分かれていて、私は今、褥婦の病棟で働いています。褥婦は入院期間が5日間と短いため、その中で児との触れ合いを含め育児に対する指導や乳房ケアを行っています。

学生の時に学んだ様々な看護観、実習での経験があったからこそ、今の病棟での学びをひとつひとつ吸収できているように感じます。皆さんもそれぞれの夢に向かって、今の学びが必ず自分の自信へと繋がると思いますので、ぜひ大切にして下さい。



ク ラ ブ 活 動

硬式テニス部

看護学部3年 岡安 志乃

自治医科大学硬式テニス部は、毎週火・土に活動しています。週2日間の練習なので、勉強やその他個人の活動と両立していくことができ

ます。また、練習日以外にも、自由にコートを使うことができるので、授業の後や空き時間にテニスをすることもできます。学年・学部問わず、みんな仲が良く、楽しく練習しています。

中学・高校と運動部に所属していた私は、体



硬式テニス部

を動かすことが大好きで、大学に入っても運動を続けたいと思い、テニス部に入部しました。しかし、テニス経験のなかった私が練習についていくことができるのか、という不安もありました。ラケットの持ち方さえ分からなかった私ですが、テニス経験のある同級生や先輩方が、丁寧に優しくテニスを教えてくれ、今では楽しくテニスをしています。私以外にも、初心者で入部した部員がたくさんいますが、練習を重ね、日々上達して今では試合もできるくらいになりました。

また、部活を通して知り合った友人や先輩・後輩は、私にとってとても大切な存在です。部活に入ったことで、大学生活における交友関係の幅がぐっと広がったと思います。部活以外でも一緒に遊んだり、相談しあったりと、私の生活を楽しんでくれ、支えてくれるのが、部活を通して知り合った仲間だと思います。楽しいときも、少し辛いときも一緒に時間を共有してきたからこそ、築くことができた信頼関係があり、みんながいるから頑張りたい、という気持ちを持ち続けることができるのだと思います。

最後に、テニスは生涯通して続けることができるスポーツだと思います。テニス未経験の方も、大学に入ったことをきっかけにテニスを始めてみませんか？優しい先輩、愉快的な同級生、かわいらしい後輩とともに、私は楽しくテニスをしています。

ピアノ同好会

看護学部4年 菅 朗子

我がピアノ同好会には、今年の春も無事新入部員が入部し、新しいスタートを切りました。部室からは連日、軽やかなピアノの音色が聞こえてきます。

我が部はとても小さな部活で、活動も昨年までは基本的には年4回のコンサートのみでした。他の部と兼部している部員も多いので、「部活」というよりは、本当に「ピアノ好きの集まり」といったほうが正しいかもしれません。また、練習日も決まっていません。その為、個人で好きなときに部室のピアノで練習ができますし、

ギスギスとした雰囲気もなく、ふとしたときに帰りたくなるような、あたたかい部活です。

去年までピアノ同好会の主な活動として行っていたコンサートは、患者さんやそのご家族・そして職員のための院内コンサートでした。コンサートに来てくださった方からは、「病院内の癒し」「コンサートに来て、もう少し頑張ってみようと思えた」「これからも続けてほしい」とあたたかい声をいただいている、それが私たち部員の心の支えとなっていたのです。

しかしそのコンサートが、開催場所として使用させていただいていた、アートインホスピタルの閉店に伴い、今年度より開催できなくなってしまいました。正直に言いますと、これは部にとってかなり大きな打撃でした。しかし、「医療者の卵である私たちが、今患者様に対して出来る、数少ない『癒し』がコンサート」である。そう考え、今はコンサート再開のために、部員一同力を合わせて頑張っています。そして「患者さんのためにできるだけ早くコンサートを開催したい」というのが、今の部員全員の願いです。

コンサートが再開できることとなりましたら、皆様にもポスターなどでお知らせできると思います。その際には、皆様も是非コンサートに足を運んでください。必ずや、日々お疲れの皆様にも、ピアノ同好会から「癒し」そして「ビタミン」をお届けします。



ピアノ同好会

学生の自主的活動

TU SALUD ES LA NET' A「君の健康が一番だよ」

看護学部3年

小峰菜穂子・齋藤 美紗・谷口 真希

服部真那美・若色亜有実

「TU SALUD ES LA NET' A」とは、日本語で「君の健康が一番だよ」という意味です。これは、メキシコのピアリーダーたちが掲げている言葉です。

今、思春期ピアカウンセリングは世界中で広まってきています。日本のピアカウンセリング活動では、若者の望まない妊娠を防ぎ、性感染症に関する知識を深めるために、周囲の人たちへも目を向けて、たった一人しかいない自分自身を大切にしていこうというメッセージを発信しています。そのような活動をしている中で、海外のピアカウンセラーたちはどのような活動をしているのか、日本での自分たちの活動をどのように発展させていくか、もっとピアカウンセリングについて学びたいという思いが強くなり、海外でのピアカウンセラー養成に携わっている高村教授に相談して、メキシコでの活動に同行させていただきました。

今回の海外研修では、日本でもメキシコでも、生＝性というテーマから将来について考え、自分自身を見つめ直すきっかけを作ることは同じ

であるということを学びました。けれど、日本では望まない妊娠や性感染症のことに焦点を当てていますが、メキシコではアルコール中毒や家庭内暴力のことに焦点があてられています。文化の違いや国家の風潮から、問題の受け止め方や見ている側面に違いがあるということがわかり、とても興味深く感じました。また、メキシコではピアカウンセラーではなくピアリーダーと呼ばれていて、彼らはピアカウンセリング活動を広めよう、知識を深めようととても意欲的でした。ピアリーダーたちは国家の問題を自分自身の問題として受け止めており、一人ひとりの考えが深く、日本の若者の健康に関する問題意識の低さも感じられました。

私たちは今回海外研修に参加して、啓発していこうという意識の高さ、自分たちにとって良い環境を作っていこうとする姿勢に刺激を受け、多くのことを学びました。また、若者から若者へ同じ目線に立って考えていくことの大切さを改めて感じることができました。私たちと同じ海外のピアカウンセリングに携わる人々と交流した貴重な体験からの学びを今後の活動に活かし、日本でのピアカウンセリング活動のさらなる展開につなげていきたいと思います。



メキシファムのピアカウンセラーとの交流会

退職された先生からのメッセージ

最終講義を終了して、今、思うこと。

自治医科大学看護学部 客員教授 高村 寿子

平成20年3月5日、教員生活を送るようになったときからの一つの夢が実現した。愛する学生たちや仲間を支えられて、最終講義を行うことであった。いざその立場になって、一番悩んだのは講義のテーマであった。その時に真っ先に脳裏に浮かんだのが、自治医科大学における看護教育の継承・発展と学生たちの力と感性の素晴らしさであった。

思い起こせば21年前の昭和62年4月、それまでの自治医科大学附属看護学校を改組発展し、自治医科大学看護短期大学が開学された。健康教育学の助教授として赴任した。これから何をテーマとして教授研究していくか、初代学長松本清一先生と共に開講した“ヒューマン・セクシュアリティ”ゼミがきっかけとなって、思春期の健康教育に取り組むこととなった。

ゼミ活動は思いがけない活動を自然発生させた。学生たちがいつの間にかクラスメイトや医学部の学生たち、さらには高校時代の仲間たち、近隣の高校生たちに学んだ知識とスキルを生かして、性に関する相談活動を開始したのである。ピアカウンセリング活動の発祥である。その活動を歴代学長先生始め教職員の方々ที่暖かく支えてくださり、なおかつ活動の理論的根拠を学ぶために留学の機会が与えられ、この留学で学んだ理論的根拠に基づいて、その活動は全国へと広がった。その活動が厚生労働省の健やか親子21の中に取り入れられたその年、看護学部が誕生し、ピア活動は看護学部へ継承されたのである。

継承されてからの活動は栃木県のリーダーシップをとり、全国各県のピア活動のモデルとなり各県の養成講座のアシスタントまで努めるようになった。そしてその活発な活動をジャイカが認め、思春期リプロヘルス本邦研修の場に看護学部とピアッ子たちが選ばれ、国際的にも認められるようになっていった。

さらに海外のピア活動を学びたいと海外研修ツアーを組み、海外進出の第一歩も看護学部生によって作られた。そして、本年2月、看護学部のジャイカ活動と一緒に取り組み、現地活動をするまでに力を付けるようになった。

他方その力は、ピア活動だけでなく看護活動そ

のものにも大きな力をつけている。実習期間中、終了後によく研究室に飛びこんできて、「ピアカウンセリングを学んでいるから、患者さんの気持ちに共感しながら寄り添えて、患者さんと共に喜びを共有できた…、ピアッ子をやっていて本当に良かった…」と顔を輝かせて報告してくれた。

そこで迷わず、最終講義のテーマを「自治医科大学から発信した性＝生の健康教育の新戦略～若者の若者による若者のためのヘルスプロモーション」と決定した。

当日は自治医科大学看護短期大学卒業生から看護学部の在校生までの多くの教え子たち、そして厚生労働省、栃木県庁、健康福祉センター、各市町村などの行政の方々、また小・中・高校の先生方、とちぎ思春期研究会の会員の方々、さらにはこのテーマに取り組む北は青森から南は熊本までの日本ピアカウンセリング・ピアエデュケーション研究会の仲間たちが駆けつけてくれた。その中で何よりも支えとなった言葉は看護学部ピアカウンセラーの“先生は感激屋だから、途中で泣かないように、おれたちの先生なんだから、最後まで先生らしく明るくさわやかに…”であった。

最終講義を終了して看護学部を去った今、看護短大から看護学部へと継承された看護学生の力と感性が無かったら、この新しい性の健康教育はわが国に存在しなかったのだと改めて強く思う。一緒にこの活動を作り上げていく達成感・満足感を共感・共有できた教員生活を本当に幸せだったと、感謝の思いでいっぱいだ。そして、これからも客員教授として、一緒に活動できる一瞬・一瞬を大切に、ともに成長したいと思っている。





教 員 紹 介



*がん看護学*****

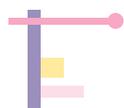
教授 本田 芳香

今年度より大学院看護学研究科にて、がん看護学領域における看護専門職養成を目指したコースが開講されました。既に看護職として臨床実践を積んだ方が対象ですが、がんとともに生きる患者とご家族の方々のあらゆる健康レベルに対して生活の質の向上を目指す総合的ケアを展開するため、がん看護学領域の専門的知識・技術を修得する専門領域です。がん看護学領域の教員が主にかかわる専門科目は、1年次は「がん看護学講義Ⅰ」「がん看護学講義Ⅱ」「がん看護学講義Ⅲ」「がん看護学演習Ⅰ」「がん看護学演習Ⅱ」「がん看護学演習Ⅲ」、2年次は、「がん看護専門看護実習」「がん看護学課題研究」です。「がん看護学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」では講義や演習を通して、がん治療・療養過程で生じる患者及びその家族に生じる複雑な健康問題に対して、迅速で的確な臨床判断をするための包括的ヘルスアセスメントの視点を学修し、最新のケア実

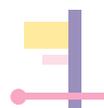
践への適応を探究します。「がん看護専門看護実習」では、がん看護学講義および演習での学習を看護実践に活用し、高度な看護実践能力の基礎を病院および地域実習で修得します。そして「がん看護学課題研究」ではがん看護学領域における新たな知見を探究するため、自己の研究課題に基づいた研究論文を作成します。

日々臨床実践者の方々の学習意欲と真摯な姿勢に刺激を受けながら、看護専門職育成のための教育方法や研究に担当教員一丸となって邁進しております。教員構成は、本田芳香、小竹久実子、小原泉の3名で、臨床実践が大好きな教員の集まりです。日々試行錯誤しながらも柔軟な発想ができる雰囲気の中で「臨床実践者と共に」を合言葉にし、新しいものを一緒に創り上げるために意欲的に取り組んでいます。これから21世紀のがん看護学の発展に寄与するため、がん患者とご家族を取り巻く生活環境を総合的に調整するため資源開発やがん看護学教育の標準化に向けた実践研究をすすめていきたいと思っております。





新任教員紹介



◆本田 芳香 教授

専門分野：がん看護学

研究テーマ：がん患者とその家族に対する生き甲斐・自己実現を目指した地域トータルケアシステム

抱負：自然環境に恵まれた中で、学生さん達の活気あふれるエネルギーを日々実感しております。素晴らしい学び舎の中で、自由な発想と創造性の豊かな人材を育成するため微力ながらも尽力していきたいと考えております。本学から臨床実践教育との協働システムを、新たな息吹として発信できればと思っております。

◆小竹 久実子 准教授

専門分野：がん看護学

研究テーマ：「1. 喉頭部周囲がんによって喉頭を摘出した方の心理的適応とQOL及びソーシャルサポートに関する研究」「2. 看護学生の学習意欲及びストレスに関する研究」

抱負：附属病院が隣接した恵まれた環境の中で

の大学というメリットを活かしながら、地域との連携をシステム構築して、充実した支援体制を見出していきたいと思っています。また、看護学生には、難題を越えられた時こそ自己成長できるチャンスがあるため努力を惜しまずに日々を過ごしてほしいことを伝え、看護の心を育てられるように関わっていきたいと思っています。まだまだ微力な私ではございますが、お互いが高めあっていながら、看護の質の向上に努めるように精一杯頑張りたいと思います。

◆桑原 美弥子 講師

専門分野：成人看護学

研究テーマ：超急性期の脳神経損傷患者における意識レベルの回復に焦点をあてたケア

抱負：医療現場は患者ニーズの多様化、テクノロジーの進歩、医療に対する社会の要請の増大、各種医療関連制度の創設・変革など激しく変化しています。未来の医療界の一端を担う学生のみなさんが自ら思考する際の源泉と

なる豊富な知識、実践に耐え得るスキル、他者理解の真髄、社会性を身につけるサポートに、微力ながら努めたいと思います。

◆崎田 マユミ 講師

専門分野：成人看護学

研究テーマ：慢性疾患とともに生きる患者さんの経験理解と支援や看護者の作業・労働状況と職場環境の改善に関心を持っています。

抱負：環境に恵まれたキャンパスで学生の皆さんとともに授業や実習を頑張っていきたいと思っています。

◆櫻井 美奈 講師

専門分野：基礎看護学

研究テーマ：看護基礎教育、看護継続教育

抱負：4月から着任いたしました看護教員5年目の櫻井です。基礎看護学の講師として主に1年生、2年生の科目を担当いたします。大学を取り囲む美しい自然環境だけでなく、人的環境の素晴らしさにも恵まれ、気持ちの良いスタートを切ることができました。若く、柔軟性と吸収力、そして多くの可能性をもった学生たちが、この豊かな学習環境の中で大きく成長するプロセスに携われることを嬉しく思います。

◆野崎 章子 講師

専門分野：精神看護学

研究テーマ：児童精神科看護を中心に、児童の心の問題への看護援助を支援するプログラムの開発に関する研究を行っています。同時に、異文化看護に興味があり、研究会等に参加しております。

抱負：初めて栃木の地にやってきました。栃木の青空のように澄んだところを持った学生の皆さんとともに物事を真摯に見つめ、自分自身も学びを深めていきたいと考えております。

◆矢野 美紀 講師

専門分野：母性看護学

研究テーマ：母親の育児行動をテーマに、乳幼

児に対する育児行動が成長発達にどのように影響するかという研究を行っています。

抱負：これまでは色んな方々の愛情を頂きながら、多くのことを学ばせて頂きましたので、次はその学びの点を線で結び、この地に還元していく段階だと思っています。この広い大地にしっかりと根差すべく努力を惜しまず、日々研鑽していきたいと思っております。踏まれても、踏まれても起き上がる雑草のごとく。

◆池下 麻美 助教

専門分野：老年看護学

抱負：これまでは臨床で看護師として勤務しておりましたので、教員としては1年生となります。不慣れで行き届かないことも多いかと思いますが、学生さんの活気あふれるパワーと純粹で前向きな心を大切に、共に学んでいきたいと思っています。一緒に悩んで一緒に歩いていきましょう。

◆須藤 久実 助教

専門分野：母性看護学

研究テーマ：早期産、低出生体重児を出産した母親の出産体験および母親意識。

抱負：助産師として主にNICU看護を実践してきました。教員になって2年目に入ったばかりです。まだまだ未熟者ですが、努力をおしまず、学生の皆さんとともに一步一步成長していきたいと思っています。



◆長井 栄子 助教

専門分野：老年看護学

抱負：生まれも育ちも千葉県の私ですが、栃木県のことを『第2のふるさと』と感じられるよう、早くなじんでいきたいと思っています。学生の皆さんとは主に実習でお付き合いさせていただきま。患者さんとの触れ合いの中で、看護の奥深さや人としての成長を学生の皆さんと一緒に実感していけるように努めていきたいと思っています。

◆蓮井 貴子 助教

専門分野：地域看護学

研究テーマ：地域で生活する人々の行動変容のための自己決定支援についての研究に取り組んでいきたいと思っています。

抱負：出身は北海道です。保健師としてのスタートも北海道で、その後職場が変わる度に青森、川崎と南下していましたが、このたび少し北上しました。また、はじめての遠距離・新幹線通勤で少し不安もありましたが早起きにもすっかり慣れました。これから、みなさんと一緒によく遊び、よく学んでいきたいと思っています。



◆濱田 恭子 助教

専門分野：精神看護学

抱負：縁あって南国鹿児島から赴任して参りました。地域で生活する精神障害者やその家族の居場所や心の拠り所に関する研究を行っています。早くも臨床実習が始まり奮闘する毎日ですが、まずは、新しい土地での自分の居場所作りからだなあと思っている今日この頃です。教育の場も初めてなので皆さんと一緒に学び、共に成長していけたらと思っています。

◆森島 知子 助教

専門分野：母性看護学

研究テーマ：臨床では多くの早産の母児への看護に関わって参りましたので、早産出生した母親の傷ついた体験、母親意識についての研究に取り組みたいと考えております。

抱負：これまで助産師として病棟勤務しながら、看護学生の臨床指導、看護師の継続教育にも携わって参りました。このような経験から基礎教育の重要性を実感し教育者を志しました。不慣れで至らないことばかりですが、学生の皆様の学習の一助となれるよう努めて参ります。



教員名簿 (職位順・50音順) (平成20年7月1日現在)

職名	氏名	役割	
学部長	水戸美津子		
教授	岩永 秀子	実習調整委員会委員長 教務委員会副委員長	
	川口 千鶴		
	竹田 俊明		
	竹田津文俊	学生委員会委員長	
	中村 美鈴	広報委員会委員長	
	永井 優子	FD評価実施委員会委員長	
	成田 伸	国家試験対策委員会委員長	
	春山 早苗	教務委員会委員長	
	半澤 節子	学生委員会副委員長 広報委員会副委員長	
	本田 芳香		
	渡邊 亮一		
	准教授	井上 映子	FD評価実施委員会副委員長 学年担当アドバイザー 4 学年担当
		大久保祐子	学年担当アドバイザー 2 学年担当
大塚公一郎		国家試験対策委員会副委員長 学年担当アドバイザー 総括責任者	
大原 良子			
小竹久実子		学年担当アドバイザー 1 学年担当	
高木 初子		実習調整委員会副委員長 学年担当アドバイザー 3 学年担当	
講師	宇城 令		
	内海 香子	学年担当アドバイザー 2 学年担当	
	工藤奈織美		
	桑原美弥子		
	崎田マユミ		
	櫻井 美奈		
	里光やよい	学年担当アドバイザー 1 学年担当	
	鈴木久美子	学年担当アドバイザー 3 学年担当	
	関森みゆき		
	塚本 友栄		
	野崎 章子		
	横山 由美	学年担当アドバイザー 4 学年担当	
	矢野 美紀		
山本 洋子			
助教	池下 麻美		
	加藤 優子		
	川上 勝	学年担当アドバイザー 1 学年担当	
	佐藤勢津子	学年担当アドバイザー 3 学年担当	
	須藤 久実		
	武正 泰子	学年担当アドバイザー 2 学年担当	
	田中 美央	学年担当アドバイザー 4 学年担当	
	長井 栄子		
	西岡 啓子		
	蓮井 貴子		
	濱田 恭子		
	森島 知子		

※役割については、学生の教育・生活支援に関わる委員会等のみとした。

看護学部平成19年度卒業生(3期生)の動向

【進路状況】 H20.3.31現在

就職	自治医科大学附属病院	42名
	自治医科大学附属 さいたま医療センター	20名
	その他の病院等	40名
進学		4名
その他		3名
合計		109名



卒業式式典風景



卒業証書・学位記伝達式式場内

年間スケジュール

前学期

後学期

4月

4/4 入学式

4/7 授業開始(1年)

4/29~5/5 春季休業

5/14 大学創立記念日

7/1~7/4 定期試験(4年)

7/22~7/25 定期試験(1・2年)

10月

10/1 授業開始

10/10~10/12 学園祭

12/25~1/4 冬季休業

1/26~1/29 定期試験(全学年)

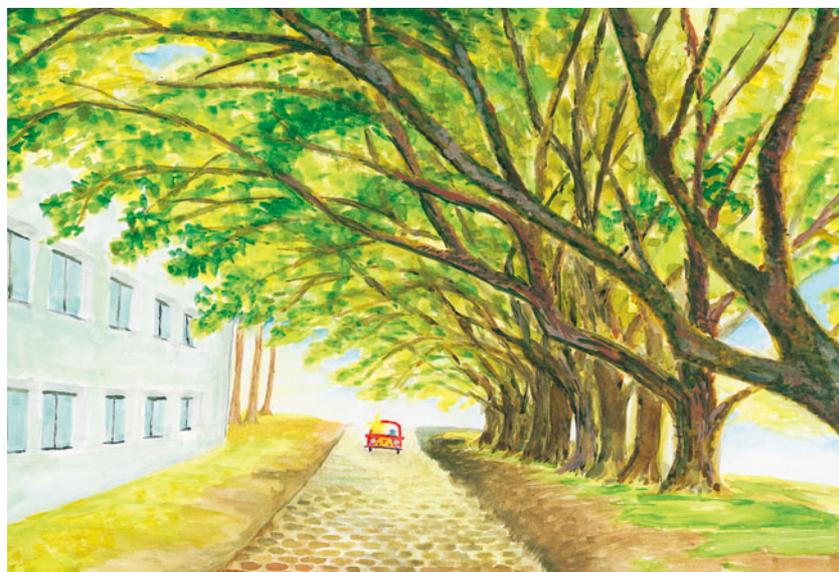
3/6 卒業式

3/21~ 学年末休業

夏季休業
8/2~9/30

7月

3月



「木のトンネル」看護学部4年 中村 瞳

編集後記

ビタミンNも第5号となり、年々内容も充実してきているように思われます。各学年と卒業生の近況報告は、日々の学習場面や卒後医療現場でがんばっている姿が目には浮かび、思わず微笑ましくなってしまいます。部活や海外研修などの自主的活動の報告も充実した内容でした。最終講義を終えた高村先生には、引き続き客員教授として本学にいらしていただいておりますが、先生の育てたピアッ子たちは様々なところでその経験を活かしていることと思います。これからも、ビタミンNではこうした看護学部の在学生、卒業生、教員の三者で紡ぎ合う歴史を、少しでもお伝えできたらと思います。

編集委員 半澤、大原、石倭



ビタミンN 第5号

発行日 平成20年7月
発行 自治医科大学看護学部
〒329-0498
栃木県下野市薬師寺3311-159
TEL 0285-58-7409